

い子には必要である。感情を押し殺し続けると、無感動になる。勿論それ以外にも勉強のことや兄弟喧嘩など、親子の確執があったかもしれないが、家族の中で彼が孤独になった事は間違いない。それが彼のナルシズム（悲劇のヒーロー願望）が発端で始まったとしても。

祖母の死から「死」というものに興味を持ったという供述は本当であろう。出来ることなら死んだ祖母に会いたい、という思いは自然である。彼は日頃から新聞の三面記事とテレビの番組欄は必ず見ていたと供述にある。当然、阪神大震災や脳死の問題は「死」に直結するので真剣に読んだり見たりしたであろうと考える。淳君の首を切断する前の晩、ふと思いついた時、命令系統の首を体から離したらどうなるんだろうと思ったと供述している。

前にも書いたが諫早湾の、ギロチンという言葉にも無意識に反応していると思う。首を鑑賞したり観察したり、彼は世界的な医学者になったつもりだったのではないか。そしてやはりこれらの行動は性衝動の一種だと思う。征服したと思う満足感やその血を飲もうとした事がそれを物語る。殴打された女の子も可愛い。ハンマーにするかナイフにするか一瞬一瞬迷っている。彼はナイフの方が致命傷を与えると考えていたようだ。然しそれにしても何故凶器を万引したり、猫を殺し舌を集めていた時期に目を覚まさせなかったのか、悔まれてならない。

もっと干渉して欲しかった。親が一番悪いのは当然だが、凶器になる品物を売っている店の主人は子供に万引などさせるな！ホラー映画のビデオショッ

プも万引させるな！想像力豊かな子は映画の中へ入ってしまう。またB君捜索中のT学校の女先生、そして機動隊の人B君の首を持って歩いているAを不審に思わなかったのか、せめて名前と住所位聞いてほしい。完全に彼は大人をなめきっている。

そして両親。息子がおかしいのが分っていないながら何故見て見ぬ振りが続けたのか。真実を認めたくなかったのだからその罪は重い。供述調書にもあったが、B君殺害の時もその前の殴打事件の時も「女の子可哀想ね」とか「B君居なくなっちゃったみたいよ」など彼に声を掛け反応を伺っている。それは彼のした事ではないかと疑っているから聞いたのだろうと、全国の母親は思っている。

この様な子を放任してはいけない。先ず2階全部をひとつにし個室を無くし、市主催のワークショップに参加させ演じることで心を解放させる。

大自然の中で農作業をするのも効果がある。親から離れるのも大事な事だ。この子は今回の事が無かったとしても高校生になったらコンクリート殺人事件に似た事件を起こしただろう。今度は「女」とは何かと言って。

この事件は犯人の少年Aが極めて想像力が豊かだった為特異な事件になったが、もし想像力ではなく腕力が強かったら、よくある様なイジメリンチ事件になったであろう。根っ子の所は同じだと思う。

教育問題を考える時、どんな子も私たちの一人と考えることが大事ではないかと、少年の供述書を読んで、今さら長ら思った。中国での731部隊と少年がオーバーラップして見える。

【リレーコラム】世相を斬る】物事の本質を見抜く能力を磨こう！

西暦2000年まであと1年半を残すのみとなった今、我々は近代日本の大転換期であった1868年の明治維新と1945年の敗戦に匹敵する程の大転換期を迎えていると言っても過言ではないと思います。

いつの世でも世の中の大きな動きに鈍感で身近な日常生活にしか関心を示さない庶民が大多数を形成しているものですが、昨今の日本人はその度合いがますます酷くなっています。

サッカーのワールドカップ・フランス大会におけるチケット横領事件に対する日本人サポーターの対応を見ましても、何が何でもスタジアム内で観戦したい気持ちが優先して、チケット無しで渡仏し、ダフ屋から通常250フラン(¥5,800)のチケットを、6,000-10,000フラン(¥138,000-230,000)の法外な値段で購入する事に何の疑問も感じない日本人が数多くいたのは、噴飯ものです。金持ち日本人から金をふんどくろうと周到に準備された民に見事にはまり、その結果自分の払ったお金が闇の世界のマフィヤを肥え太らせるだけであると言う事実は何の感慨も覚えないのです。

個人的欲望の満足を最優先し、その欲望を満たすために個人がとる行動がどのような社会的な影響をもたらすかの反省が皆無なわけです。日本人サポーターは、全員ダフ屋のチケットを断固拒否し、市当局が用意してくれた大型スクリーンで観戦をすべきだったのです。

ワールドカップフランス大会に関してもう一つ言えば、第一戦の対アルゼンチン戦、第二戦のクロア

チア戦で1点も得点出来なかった日本代表チームの戦い振りを見ますと、試合前のマスコミが盛んに煽りあたかも決勝進出出来るのではないかとこの幻想に大部分の国民が酔いしれていた事を見ますと、日本人が物事の本質を個人で判断する能力が全然進歩していない事を暴露しました。

丁度戦前の大本営発表の「華々しい」戦果が報道官制の中一方的に流され、何も知らない国民は戦勝祝いに沸き、日本の勝利を疑わなかったわけです。日本軍の本当の実力は、アメリカ軍と本格的な戦ったら1年~2年しかもたないほどの差があったにも拘わらず、そのまま本格的な戦争に突入し、2発の原爆投下と300万人の戦死者を出してようやく現実を知らされたのとまったく同じ現象です。

現在は情報化社会であり、新聞・雑誌・TV・ラジオ等での報道や言論の自由が保証され、又インターネットの普及でその気になれば各種情報を個人が集め、何が真実なのかをかなりの程度で把握できるインフラが整備されているのです。それにも拘わらず、マスコミが設定したある種の価値観に国民全体が酔ってしまうと言う、恐ろしい事態に陥っています。問題は制度の問題というより個人の思考態度だと思います。マスコミや権威ある評論家や政党や団体、組織の言っていることの中から、何が真実であり、何が嘘でその背景に何が隠されているのかを、我々個人が情報収集して、物事の本質を正しく認識する能力こそ、今求められている最も重要なことだと思います。